

## 平成28年度 女性のチャレンジ賞表彰受賞者

### 1. 女性のチャレンジ賞(受賞者6名)

(順不同)

番号	受賞者	都道府県	活動概要
1	オオタ アヤコ 太田 彩子 (一般社団法人営業部 女子課の会代表理事)	東京都	<u>営業職の女性が子育てしながら仕事を続けられる環境づくりをサポート</u> 男性が圧倒的多数を占め、長時間労働をはじめとする旧来の働き方が定着していた営業の世界で、女性が出産後も、成果を出しながら家庭や育児と両立して仕事を続けられる「新しい働き方」の創出に取り組む。「かしこカワイイ女性を目指す」をキャッチフレーズに、主に会員向けに能力開発やネットワーキングのための勉強会・イベントを開催。企業側へも、女性営業職が活躍するためのコンサルティングや教育・研修を実施。スタートした平成21年以降、会員の輪は3000人まで広がり、雇用する側、される側への理解促進、環境整備の働きかけを行っている。
2	ホンマ ユミコ 本間 佑史子 (フィットイン株式会社代表)	東京都	<u>ブラジャーのWEB試着を可能にし、女性の悩み解消に尽力</u> 下着メーカーを退社後、27歳で起業。ITと下着の知識を応用した、オンライン上でブラジャーの仮想試着ができる「オンラインフィッティングサービスFITTY(フィッティー)」を開発、運営。同じサイズでも着用感が異なるブラジャーの形状をデータ化し、ユーザーの体型データと照合するという仕組みにより、全ての女性が心地よくブラジャーを着用できる環境を整えることを目標としている。女性ならではの着想をビジネス化し、大手メーカー等を顧客としサービスを展開、新たなテクノロジーベンチャーとして注目を集める。
3	クリヤマ ナツコ 栗山 奈津子 (株式会社あきた森の宅配便 代表取締役)	秋田県	<u>高齢者と地元名産の山菜を組み合わせ、地域の活性化に貢献</u> 地域の特色を活かして自分の好きなことに取り組みたいという思いから、「山菜採り代行サービス」で、地元の魅力を全国に発信する地域ビジネスを展開。山菜採りに長けた地元の高齢者を「山の名人」に認定し、注文を受けてから名人に収穫を依頼。地域のお年寄りのスキルを活かし、新鮮な天然山菜を消費者に届けるユニークなサービスを行っている。高齢者にとって知識や技術を活かして収入を生み出すことが生きがいにもつながっており、少子高齢化が進む秋田県において、年齢を重ねてもなおいきいきと暮らせる社会づくりのヒントにもなっている。 (表彰歴) 環境省グッドライフアワード「環境大臣賞最優秀賞」受賞(平成27年)、秋田県男女共同参画社会づくり表彰チャレンジ賞(平成27年)、総務省ふるさとづくり大賞「団体表彰」受賞(平成28年)
4	ホツタ マナ 堀田 真奈 (特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ代表)	愛媛県	<u>ワークライフバランス実現のための情報の発信に尽力</u> 地元旅行代理店で約8年間の勤務後退社。転職・結婚・妊娠・出産を経験して、「育児と仕事を両立させるための情報交換の場を作りたい」と思い、平成19年から活動開始。平成21年9月には、「NPO法人ワークライフ・コラボ」を設立。人材採用支援事業、ワーク・ライフ・バランス導入支援のほか、地元企業の一般事業主行動計画の策定や進捗管理に対するアドバイザー活動を愛媛県内を中心に精力的に実施。働くお母さん向けの講座やランチミーティング、座談会を開催するなど、地道な意識啓発活動にも取り組んでいる。
5	エガワ ミナコ 江川 美奈子 (特定非営利活動法人きららの木 代表)	奈良県	<u>障害者もその特性を活かして輝ける場の創出</u> 知的障害児の母であった普通の母親が、子どもの養護学校卒業後の進路を考え始めたことをきっかけに、知人や関係機関の支援を受けて、平成21年2月法人設立に向けた総会を開催。平成23年5月「一人ひとりを人として大切に」を理念に掲げ、幼児から成人までの障がいのある人たちに対して、障がい者一人ひとりの特性を大切に創作的活動または生産活動が行える場を提供するとともに、地域で自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう支援することを目的に通所事業を展開。 (表彰歴) 奈良介護大賞あたたか介護賞受賞(平成21年)、奈良県知事感謝状(平成23年)、全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会賞受賞(平成23年)
6	ヤマリョウ ヒロミ 山領 裕美 (山領ファーム代表)	佐賀県	<u>玉ねぎへの愛から普通の農家女性が「食べる玉ねぎドレッシング」を商品化</u> 玉ねぎの栽培・出荷を手掛ける中で、市場価値のない規格外の玉ねぎを廃棄するのはもったいない。「野菜嫌いの子どもが野菜を食べてくれるようになってほしい」という思いから、「食べる玉ねぎドレッシング」を商品化。海外でもその商品価値は高く評価されている。全くゼロからの出発だったため反対の声も多かったが、研修会や講習を受け知識をつけたことで商品化に成功。

## 2. 女性のチャレンジ支援賞(受賞団体2件)

(順不同)

番号	受賞者	都道府県	活動概要
1	<p>東北大学工学系女性研究者 育成支援推進室(ALicE) (田中 真美)</p>	宮城県	<p><u>学内にとどまらない、工学系女性研究者の研究環境整備</u></p> <p>工学系分野においては女性が極めてマイノリティである中、工学を志す女子学生、女性研究者の活躍推進・男女共同参画意識醸成のための各種活動を継続。育児期の研究者に対する支援要員の派遣やベビーシッター利用料等補助の両立支援を行う。また、静養室(男女)の整備や、学会や一般公開イベント等の際は一時託児スペースとしても利用できる託児室の新設を実現。学内のみならず工学分野全体における両立支援に取り組む。</p> <p>(表彰歴) 第11回日本学術振興会賞(平成27年)</p>
2	<p>株式会社PLUS-Y (代表 永田 洋子)</p>	千葉県	<p><u>女性の視点を活かしたコンサルティングと女性の起業サポート</u></p> <p>衰退していく地元商店街の活性化には、「財布の紐を握っている女性の声を取り入れることが大切」と考えた永田代表により、平成20年に女性マーケティングコンサルティング会社として発足。女性視点による販売促進や商品開発支援、イベント企画など、地域密着型のコンサルティングを実施している。平成24年から、女性ならではの起業へのニーズ・抱える問題にマッチした起業サポート事業を開始。千葉市の起業家支援施設の運営受託や、起業を希望する女性の活動拠点となるレンタルスペース「みずいろ会館」を運営する他、起業イベントの実施や起業希望者向けのセミナーを開催している。</p>

## 3. 女性のチャレンジ賞特別部門賞(受賞者1名、受賞団体2件)

(テーマ:「IT技術を活用した働き方・暮らし方の改善」)

(順不同)

番号	受賞者	都道府県	活動概要
1	<p>釧路公立大学皆月研究室 マタニティ・育児支援 アプリ開発 (皆月 昭則)</p>	北海道	<p><u>家族が一体となって子育てに取り組めるよう、各種アプリを継続的に提供</u></p> <p>出産や子育てで経験のない学生たちが、家族や地域のマタニティ、保健師や助産師などの意見・要望を収集し、出産や子育てを支援する様々なアプリを開発している。昨年土田氏がチャレンジ賞を受賞した「陣痛ダイアリー」にとどまらず、育児支援アプリ「おっぱいですよ」では、授乳データをもとに赤ちゃんとお母さんの生活リズムや母乳時間の間隔を知ることができる上、助産師監修のコメントが表示され、授乳への知識や赤ちゃんの状態への気づきを与えている。記録データを夫婦や家族全体で共有することで、皆が子育てをしている意識が持てる。</p> <p>(表彰歴) 北海道男女平等参画チャレンジ賞(平成28年)</p>
2	<p>ウーマンネットアカデミー&amp; コンサルティング (代表 丸山 恵子)</p>	神奈川県	<p><u>ITスキルの向上を通して女性の社会復帰支援、起業支援に尽力</u></p> <p>女性の職場復帰や起業において、女性もITスキルの向上は欠かせないという理念のもと、ITが苦手な女性のためのWebアカデミーの運営、女性起業家支援に従事。子育て中でも学べるよう、子連れ主婦の参加者の為に、セミナー会場ではおもちゃや絵本を配置するなど工夫をし、希望者があれば目の届くところで付き添い保育も提供。一般のパソコンスクールにはない立地や受講環境、時代のニーズにあったIT講座を提供。パソコン操作以外に、スマートフォンや、ソーシャルメディアの安心安全な利用方法、代表者がITやマーケティングの専門家として企業に勤務していた際に身に着けた知見を、起業家に必要な技能として伝授する講習も実施している。</p>
3	<p>今井 房子 (株式会社コミュニティネット 代表取締役)</p>	埼玉県	<p><u>子育てや介護中でもITスキルを活かして働ける、チームによる仕事の仕方を提供</u></p> <p>女性が継続就業するための仕組みづくりをしたいという思いから、平成23年に、PCスクールや企業を対象としたIT支援を事業とする「株式会社コミュニティネット」を設立し、PCスクール主体の事業から女性向けスクールへと事業を拡大してきた。平成27年からは、子育てや介護等の理由で現在離職中の女性の能力を活用する為、プログラミングやシステム構築等の高度ITスキルを持つ働き続けたい女性によるチーム【Work COM】(ワークコム)を立ち上げ、女性の雇用と多様な働き方の推進に取り組む。また、チームの顔が見える関係にこだわり、定期的にメンバーが集結し、フォローアップ研修や情報交換を行っている。</p> <p>(表彰歴) 一般社団法人日本経営士会「ビジネスイノベーションアワード」優秀賞受賞(平成27年)</p>